

令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱の予告に関する「大学入試のあり方に関する検討会議」(提言)の抜粋

第2章 記述式問題の出題のあり方

4. 記述式問題の出題推進の考え方

(2) 大学入学共通テストにおける取扱い

- 50万人以上が同一日・同一時刻に受験し、短期間で成績を各大学に提供しなければならない大学入学共通テストにおいて記述式問題を導入することについては、一定の意義はあるものの、2. で述べた課題の克服は容易ではなく、その実現は困難であると言わざるを得ない。
- このことを踏まえれば、大学入試センターにおいては、これまでの大学入試センター試験及び大学入学共通テストにおける思考力等を問う試験問題の作成で得られた知見を生かし、高等学校の学びと大学入学後の学修との接続の必要性を踏まえ、マーク式問題の中で、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視した出題を一層工夫していくことが適切であり、第1回大学入学共通テストに対する評価も踏まえ、不断の改善に努めていくことが期待される。

第3章 総合的な英語力の育成・評価のあり方

4. 総合的な英語力評価の推進の考え方

(2) 大学入学共通テストにおける取扱い

(大学入学共通テストの枠組みにおける資格・検定試験の活用の実現可能性)

- 大学入学共通テストの枠組みにおいて、英語成績提供システムを介して様々な英語資格・検定試験のスコアを一元的に活用する仕組みについては、試験によって会場数、受験料、実施回数や、障害のある受験者への配慮が異なるなど、2. で述べた課題を短期間で克服することは容易ではないと考えられる。加えて、コロナ禍で資格・検定試験の中止や延期が生じ、外部の資格・検定試験に過度に依存する仕組みの課題が認識された。こうしたことから、大学入学共通テスト本体並みの公平性等が期待される中において、この方式の実現は困難であると言わざるを得ない。

(大学入学共通テストにおける4技能試験の開発可能性、大学入学共通テスト「英語」のあり方)

- (前略) 大学入学共通テストでのスピーキングテスト、ライティングテストについては、質の高い採点者の確保や正確な採点の担保等、記述式問題の採点と同様の問題や面接官・試験室の確保等の実施上の課題が生じるため、その実現は、技術の飛躍的進展や社会の理解がない限り困難であると言わざるを得ない。
- このように考えた場合、大学入学共通テスト「英語」の試験形態は、引き続き、マーク式問題及びICプレーヤーを使用して実施する方式とし、出題内容としては「読む」「聞く」に関する能力を中心としつつ、「話す」「書く」を含めたコミュニケーション力を支える基盤となる知識等も評価するなど、高等学校までの教育で培った総合的な英語力を可能な限り評価する方向で不断の改善を図っていくことが望ましい。

第5章 ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜

1. 令和6年度実施の大学入学者選抜に向けて

(2) 大学入学共通テストの科目構成等の見直し(新教育課程への対応等)

- 高等学校学習指導要領の改訂(平成30年告示)による「公共」「情報Ⅰ」の新設等に伴う出題教科・科目の見直し等については、大学入試センターが、必履修教科・科目を尊重しつつ大学教育を受けるために必要な学力の測定に資するものとするなど、継続的で安定的な実施の観点から科目の数や組合せ等について必要なスリム化を行うこと等を考慮して検討を行ったところであり、令和3年3月24日付けで、大学・高等学校関係団体等からの意見聴取の結果を踏まえた、大学入試センターとしての一定の結論(これまでの6教科30科目から7教科21科目への再編を行う案)が公表されている。

- 本検討会議においても、以下に示すように「大学入学共通テストのセーフティネットとしての役割を重視し、科目の簡素化を進めるべき」、「新たに必修科目となる『情報Ⅰ』を出題すべき」等、大学入試センター案と軌を一にする意見が数多く出された。(後略)

＜大学入学共通テストの科目構成等に関する委員の主な意見＞

- ✓ コロナ禍の下で大学入学共通テストにはセーフティネットとしての役割があり、科目の簡素化、スリム化をどのように実現するかが課題。
 - ✓ 原則として実施教科・科目数は削減すべき。ただし、学習指導要領に基づいて実施される高校教育の領域を可能な限り網羅すべきと考えるのであれば、新たな共通必修科目である「情報Ⅰ」を出題することも必要。
 - ✓ CBTは導入コストや技術的課題が多い。「情報」への導入も含め、CBTが自己目的化しないように留意が必要。
- 上述の大学入試センターが公表した一定の結論において、大学入学共通テストはPBT (Paper-Based Testing) で行うこととされており、「情報」については、問題の発見・解決に向けて情報技術を活用する力を見る出題を工夫することが期待される。また、今後、「情報」の出題が決まった場合には、各大学の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)に基づいた活用が推進されることが期待される。